

2026全国高齢者集会 野田会長 あいさつ

皆様こんにちは。2026 全国高齢者集会に全国各地からご参加いただきました仲間の皆様に感謝いたします。

そして、常日頃より全国各地で日本退職者連合の活動に取り組まれている皆さまに敬意を表します。

主催者を代表して一言ごあいさつさせていただきます。

今日の全国高齢者集会に大変お忙しい中、ご来賓の方々にご臨席を頂いております。私からご紹介させていただきます。

連合本部より、神保政史事務局長、中道改革連合より小川淳也代表、立憲民主党より森本真治選挙対策委員長、国民民主党より小林さやか企業団体委員会事務局次長、社会民主党よりラサール石井幹事長、公明党より宮崎勝労働局長、労働者福祉中央協議会より佐保昌一事務局長、全国労働金庫協会より村上貴幸専務参事、こくみん共済 coop より大好博巳常務執行役員にご臨席いただきました。

全体の拍手で御礼を申し上げたいと思います。後ほど、連合本部、政党代表の皆さまからごあいさつをいただき、参加された皆様と情勢の共有化を図りたいと思います。

はじめに、熊本の地震、千葉の豪雨など全国各地で発生している自然災害で被災された皆さまにお見舞いと一日も早い復興を祈っております。

私たちは世界の平和を求めて活動をしてきました。

しかし、現在でもウクライナ・ガザ・イランなど終戦の兆しは見えません。今やホルムズ海峡は、マーケットと化し、私たちの物価にしわ寄せをしています。

このような状況下、私たち高齢者は、元気で明日からも生きていけるよう、この集会を開催しています。

2月の総選挙では、「何か良いことがあるのではないか」「今までとは違う」「何かやってくれそう」「新しい何か」という印象と期待を持たせ、自民党が票を伸ばし、圧勝しました。

「新しい何か」とはなんだったのでしょうか。女性がトップになったことでしょうか。そのトップは新しいどころか、軍国主義を背景に、安保三文書の改定、私たちが一番大事

にしている憲法の改正など、数の力で押し切ろうとしています。

裏金議員と称されている人たちまでも、我も我もこの「勝組の船」に乗り込みました。連立を組む日本維新の会を併せると 352 名の乗員です。

戦前、私の父が乗っていた重巡洋艦^{じゅうじゆんようかん}「那智」は 1000 名の乗組員でしたが、アメリカ軍の攻撃でマニラ湾に沈み 800 名が亡くなったと生還した父から聞いています。

日本最強の軍艦船「戦艦大和」は、3300 名の乗員で、沖縄本島に米軍が上陸したということで沖縄に向かう途中激戦となり東シナ海に沈んでいます。

戦艦大和に乗船し生還した吉田 満さんの言葉は、「軍艦大和が沈むときは日本が沈むとき。敗れてやっと目が覚めた。」と伝えられています。このことは私たちに何を訴えたいのか、心に響くものがあると思います。

我も我もと乗り込んだ与党の船が東京湾に沈没する前に、今を生きる私たちに生きていて良かったと思える社会のビジョンをたててほしいと思います。

しかし、5 か月余りの特別国会で見えたものは、説明責任から逃げ、「数の力」で押し切ろうとする首相と、それを止める議員もいない自民党の責任政党としての劣化です。国民の代表が集う国会の機能不全は、民主主義の危機です。国会は与党のものでも野党のものでもありません。主権者である国民、私たちのものです。

怒って得することは一つもありませんが、黙って静観しているわけにはいきません。傍観者ではなく、声を出していきたいと思います。

政府は食料品の消費税率を来春 1% に引き下げることが閣議決定し、財源が定かでないのに強行しようとしています。こんな無責任な政権をほっとく訳にはいきません。消費税は 89 年に税率 3% で導入され、約 30 年かけて 10% まで施行されてきました。しかし、道のりは平坦なものではなく、国民に負担を求めるのはどうかという歴代の総理の苦渋の選択での導入でした。

消費税導入は教育・子育て支援、年金、医療、介護などに使われるものです。将来のリスクを減らすための社会的投資です。

政府は未来への責任放棄です。ほっとくわけにはいきません。

私たちは、生きていく限り、一人一人を大切にして、平和、民主主義、家父長制度を払拭してのジェンダー平等を求め、広島・長崎・沖縄の思いを忘れず活動していくことを申し上げ、今後のご支援・ご協力をお願いし、主催者を代表してのあいさつとします。『笑って過ごせる社会を私たちの声で築きましょう。』